



## ◆当面する重点作業

- 見直し摘果を実施し、品質向上を図る。
- 凍霜害の被害が大きかった地帯は、収量確保を優先する。
- 支柱立て、誘引等を実施して園内の風通しと明るさを確保し、薬剤散布に死角が出ないように配慮する。
- 徒長枝の整理は来年の花芽形成に影響が出ないようにできるだけ軽くすませる。  
 ただしハダニやメンチュウ（ワタムシ）の発生が見られる場合は風通しが良くなるよう適度に整理する。また、カミキリムシが多く発生する時期なので捕殺に努める。

## ◆第9回薬剤散布について

- 散布時期・・・7月1日(土)～5日(水)
- 調合量・・・水100ℓ当り ※混用順に記載。 散布日 月 日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
カネマイトフロアブル	100ml	ハダニ類	7日前まで
㊥イカズチWDG	66g	キンモンホソガ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで
キノンドー顆粒水和剤	100g	斑点落葉病・褐斑病・輪紋病 ・炭そ病・黒星病	14日前まで
オーソサイド水和剤80	125g		前日まで

- 散布量・・・10a当り⇒600ℓ以上

### 5. 留意事項

- 7月中下旬より収穫する品種（祝・人着つがる）には今回の散布は行わない。
- 通常の展着剤に代えてスカッシュ1,000倍（水100ℓ当り100ml）を使用すると、果実の農薬による汚れを目立たなくさせ、ハダニへの効果も期待できる。
- カネマイトフロアブルは、効果が高いダニ剤では無いため、発生初期の（発生量が少ない）内に散布量をしっかりと、散布ムラが無いようにする。  
 なお、梅雨明け後に乾燥が続くと、ハダニは急激に増加する場合がありますので、散布が遅れないようにする。大量に発生してからでは抑えられない。
- カネマイトフロアブルに代えて、マイトコーネフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100ml）を使用してもよい。なお、展着剤は一般展着剤を使用する。
- イカズチWDGに代えて㊥スカウトフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ml）を使用してもよい。
- 軟質果防止にカルシウム剤のスイカル1,000倍又はカルビタ1,000倍又は、ストピットII500倍カルタス1,000倍を7月中旬頃より7日おきに3回散布する。なお定期防除への混用は可能。

**※カルシウム剤はメリット等燐酸含有剤や落果防止剤とは混用できない。**

## ◆落果防止剤ストッポール液剤の散布について

- 乾燥している場合はストッポールの吸収が低下するので、2～3日前にかん水を行う。
- 1回散布とする。2回散布は過熟になりやすい。
- 手散布で果実及び果そう葉を中心に丁寧に散布する。
- 定期散布とは1日以上間隔を空ける。

- ⑤散布後4時間は雨に合わない(30分以内で乾く)状態で散布したい。ただし、高温の日中は、葉面の気孔等も閉じ吸収効率が悪いので散布しない。
- ⑥他の品目・品種にかからないように充分注意する。薬害の発生。
- ⑦ストッポールは登録上では収穫7日前まで散布は可能だが、効果を上げるためには収穫15日前までに散布する。
- ⑧高温乾燥条件では効果が低下しやすいため散布2~3日前にかん水を実施する。
- ⑨わい化樹は熟度が5~7日進む。また系統によっても着色差を生じる。
- ⑩シナノリップは落果防止剤の散布をしない。

落果防止剤を散布すると過熟(ボケ)やすくなり商品価値が落ちる。着色しない・食味が乗らないうちに過熟になりやすくなる。他から飛散してこないように注意する。

### ◆「夏あかり」の落果防止剤散布について

次の日程により落果防止剤を散布し、収穫前の落果を防止する。

1. 散布時期・・・平坦地 7月6日(木)~13日(木)  
満開から95日より収穫開始、その15日前にストッポール液剤の散布を行う。
2. 使用薬剤・・・水100ℓ 当り 展着剤は加用しない。

農薬名	使用量	収穫前
ストッポール液剤	66ml	25~7日前まで

3. 散布量・・・10a 当り⇒500ℓ

### ◆サンつがるの落果防止・軟質果防止剤の散布について

1. 散布日(収穫7日前までに散布する) 適期 満開90日後頃
  - ①果実肥大が良く樹勢良好な樹 ⇒ 7月18日~7月25日の1回のみ 散布日 月 日
  - ②玉伸びが悪く弱樹勢な樹 ⇒ 7月26日~8月2日の1回のみ 散布日 月 日
2. 調合量・・・水100ℓ 当り 

展着剤は加用しない。
------------

農薬名	使用量	収穫前
ストッポール液剤	100~83ml	25~7日前まで

3. 散布量・・・10a 当り500ℓ 以上十分に散布する。
4. 散布上の留意点
  - ①品質向上のためいずれかの葉面散布を使用する。  
 ケルパック66海藻液肥500倍(水100ℓ 当り200ml)  
 オルガミン 1,000倍(水100ℓ 当り100ml)  
 友果 500倍(水100ℓ 当り200ml)
  - ②樹勢が弱い場合や過熟果になりやすい場合は、ストッポール液剤を1,500倍(水100ℓ 当り66ml)にして散布する。

### ◆樹体への日焼け対策について

主枝・亜主枝等、骨格枝背面部は日焼けが発生しやすい。  
 特に北~東方向の骨格枝は発生しやすい。  
 背面部の新梢は30cmに1本以上残し日焼け防止枝とする。  
 新梢の無い所は白塗剤、わら、段ボール等で日焼け防止を行う。

## ◆果実への日焼け防止対策について

- ①無理な葉摘みをしない。特に西日の当たる所、着果が斜めになっている果実
- ②白い寒冷紗の設置(サンサンネットすっきりネットなど)遮光率13%前後  
設置したら収穫までかけっぱなし  
樹(果実)から離して設置し、風通しが良いように熱がこもらない様にする。
- ③葉摘みの前にかん水を行い、園地を冷やし、果実に十分な水分を与えておく。

## ◆園地の除草対策について

1. 殺ダニ剤を散布する3~5日前に草を刈り取るか、除草剤を散布すると防除効果が高い。  
ハダニを樹上に上げてから殺ダニ剤は散布する。根元のヒコバエも処理し薬剤がかかるようにする。殺ダニ剤散布後の除草剤使用や、草を刈り取ると事後の発生が多い。
2. 除草剤を使用する場合は使用基準・使用回数・収穫前規制に注意する。  
また早生種の収穫時期となっているので注意する。
3. 草は短く切り水分の競合を防ぐ。なお刈りすぎて土が見えるようでは逆に水分が蒸発してしまい樹体や果実に影響が出やすいので注意する。
4. ダニ剤が入る以外の時期では、梅雨の最中のため余分な水分を除き根腐れ防止のために、草はできるだけ長く伸ばすとよい。
5. 草刈り機を使用する際に、早朝からのエンジン音はトラブルの元となるので注意する。  
刃に絡まった草の除去は、必ずエンジンを止めてから実施する。

## ◆ナシヒメコンの使用について

ナシヒメコン使用の場合は第2回目の取り付け(50本/10aあたり)を7月末までに行う。

## ◆早生品種の鳥害・ヤガ対策について

1. 基本的には、防鳥ネットを張り、鳥害・ヤガ害を防ぐ。また糸等などを工夫して利用する。
2. 被害にあった果実を取り除き、呼び寄せないようにする。
3. 鳥害には、鳥よけ爆音機やバードガードを使用する。  
なお使用する場合は周辺の環境に留意してください。  
特に住宅地付近での使用や早朝・夜遅くの使用はやめて下さい。  
住宅地より200m以上はなれた所で使用する。
4. ヤガ対策として、ネットの設置やヤガ除けのライトなどを使用する。  
ヤガは山手で夜温が高いと発生する。

## ◆かん水・排水対策について

降雨が無い場合は、20mm程度の定期的なかん水を行う。

梅雨が明けたので水分競合を防ぐため短く刈り込む。ただし土が見えるほど刈り込まない。

降雨が多い場合は排水対策を行い、根腐れを防ぐ。

特に新しい化栽培は滞水に弱いので園や葉が黄色くなって落葉している園では注意する。

## ◆シナノリップの管理について

摘果・・・開花の遅い果実は熟期も遅くなる。小玉は摘果する。

着果量・・・元々着果が少ない品種

無理に着果させると樹勢が落ち将来に渡って収量が伸びない樹になりやすい。

特に幼木時期は枝を伸ばしたり誘引を行ったりと樹造りを優先させる。

落果防止剤ストッポールは使用しない。飛散を防止する。

心カビ・・・7月中旬までに赤く着色している場合は心カビ果が多い。割って確認する。

着色・・・着色しやすい品種であり、この時期に少しでも着色している果実は今後着色しやすい傾向だが、日陰で全く着色していない場合は、葉摘みをしてしても着色しにくい。

日当たりの良い枝ぶりになるように支柱立てや内部の枝のせん定を葉摘み前に実施。

葉摘み・・・時期：7月 ある程度着色し始めてから始める。

※葉影は品質低下になるが、日焼けは例外になります。

【実施する場合は、下記の内容を参照】

①梅雨明け後の場合は、梅雨が明けてから数日後、果実が温まった頃に実施すると日焼けはしにくい（梅雨明け直後が日焼けしやすい）

②葉摘み後に降雨が続くような梅雨中・梅雨のような状況なら比較的安心してできる。

③西日が良く当たる果実は日焼けしやすいので葉摘みを行わない。

④早朝や雨上がり直後など果実温度が低い時間は日焼けになりやすい。

⑤かん水や寒冷紗設置を合わせて実施する。

⑥8月の葉摘みは日焼けを起こすので、日の当たる所の葉は摘まない。

⑦幼木で葉摘みを行うと、樹勢が落ちてしまい収量が減るので行わない。

⑧程度 果実へ直接付いている葉を1～3枚まで（本来は2枚まで）

果実から離れている葉は取らない。

葉摘みの量が多いと着色が遅れるなど逆効果になる。3枚までを厳守

鳥害・・・非常に多いので、各自工夫して早めの対策を行う。

虫害・・・シンクイムシの被害が多いので、散布間隔が空かない様に注意する。

シンクイムシが多い場合は特別散布としてサイハロン水和剤2,000倍（水1000g当たり50g）を前回散布10日後に行い、その後も定期散布を収穫まで10日間隔で行い散布間隔が空かない様にしても良い（前回りんご情報参照）

### 《栽培に関する問合せ》

寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

### ○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816

松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311